

「台湾独立、主張したことない」 李登輝氏発言に波紋

2007年01月31日 22時43分

中国が「台湾独立派の大親分」と一貫して非難している台湾の李登輝(リー・トンホイ)前総統が、「私は台湾独立を主張したことはない」など従来の立場を百八十度ひっくり返す発言をしていたことが31日明らかになった。その真意をめぐって台湾政界は大揺れになっている。

31日に発売された大手週刊誌「壹週刊」の29日の取材で語った。李氏は「台湾は事実上主権が既に独立した国家だ」としながら、「このうえ独立を求めることは後退であると同時に、米国や大陸(中国)との多くの問題を引き起こして危険」と断じた。そのうえで「私は台湾独立派ではない」と明言した。

また「大陸の多くの団体や個人が私の大陸訪問を希望している。うまくいけば孔子が巡った道を私も歩いてみたい」とも述べた。

李氏に近い筋によれば、昨年後半から中国側から李氏への訪中要請が積極化しているという。08年の北京五輪開催などをにらんだ中国の「微笑戦術」の一環とみられ、李氏が「台湾独立」を表立って主張しなければ、中国要人との会談さえ現実味を帯びてきそうだ。

<http://www.asahi.com/international/update/0131/022.html>